

地域と病院をつなぐ新しいコミュニティスペース

相澤病院・相澤東病院

連携通信

特集：相澤病院でうけるがん治療最前線



vol.1
2023/4

特集②：広がる地域包括ケア～相澤東病院～
医師紹介：新倉副院長

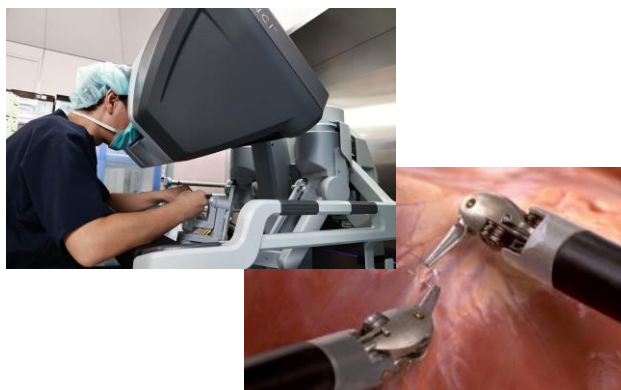
患者さんによりやさしい治療を
行うため、昨年10月より
「ダヴィンチ」を導入しました。



当院では患者さんに安全で身体への負担の少ないロボット支援下手術（ダヴィンチ手術）を開始しました。

従来の身体を切る手術に比べ、傷も小さいため負担も小さく、入院期間も短くて済みます。まずは前立腺癌の治療から開始となりましたが、前立腺癌の手術では、お腹の複数に1cm～2cm程度の傷からロボットの鉗子を入れ手術を行います。これにより手の動きより細かい動きが可能となります。

昨年10月より治療を開始し、2月現在で20名の患者さんが治療を受けられました。



相澤病院では2022年10月4日から手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた前立腺全摘除術を開始し、現在週1日のペースで行っており、経過は良好です。現時点で当院でのダ・ヴィンチでの手術は前立腺癌のみですが、今後、腎癌、胃癌、肺癌など順次開始していく予定です。ダ・ヴィンチの利点は、前立腺手術に関しては1) 傷が小さい2) 出血が少ない3) 尿禁制など神経機能への影響が少ない4) 確実な吻合が可能5) 術後の回復が早いなどがあげられます。さらに、手術室のモニターに画像を映し出しており1) チームとして情報を共有できる2) 詳細な手術内容を医療スタッフに教示できるなどの利点もあります。当院ではロボット手術を代表とする低侵襲手術から進行期癌の集学的治療まで幅広く対応しており、日々研鑽を積んでおります。悪性疾患をはじめ、悩んでおられる方がおられましたら是非とも相澤病院を紹介して頂きますようお願い申し上げます。

道面 尚久 泌尿器科 医長

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・日本泌尿器科学会泌尿器科指導医

日本泌尿器科学会技術認定（泌尿器腹腔鏡）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本内視鏡外科学会技術認定（泌尿器腹腔鏡）

日本泌尿器科学会泌尿器ロボット支援手術プロクター認定



高度な医療をお住まいの近くで、安心して受けられるように。

がんの病状説明を受けた方に示される治療方法は、当院では「手術療法」「薬物療法」「放射線療法」の3種類があり、患者さんの状態に合わせて選択をしています。日本では、これまで手術ががん治療の中心にありましたが、近年は薬物療法や放射線療法が進歩し、がんの種類やステージ（病期）によっては手術と変わらない効果が認められています。

様々な検査を行いながら、どの治療方法がその人のがんにもっとも効果を期待できるかを、医師は探っていきます。検査結果に加え、その人の年齢や性別、環境や希望なども考慮して総合的に判断し、治療方法が提案されます。当院では様々な診療科の医師達が話し合い、患者さんにとって最適な治療方法を検討しています（カンサード）。また、がん集学治療センターが中心となり、2つ以上の治療を組み合わせる（集学的治療）も行っています。



手術治療

治すだけの手術だけでなく、機能温存、患者さんの生活や希望に配慮した治療をおこなっています。大腸がんや胃がん、食道がんに対する腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術を積極的におこなっています。

陽子線治療

世界初の上下配置式陽子線治療施設。精密な治療を可能にする高度な装置を揃え、複雑な形状のがんにも対応しています。

ガンマナイフ（放射線治療）

ガンマナイフTMでは、放射線を多方向から高い精度で集中的に照射し、頭を切らずに脳病変もしくは機能的脳疾患を治療します。1回の治療で複数の病巣を照射するなど、広い治療適応があります。

トモセラピー（放射線治療）

トモセラピーはCTの技術を応用し、360度あらゆる方向から放射線量を調整しながら照射します。病巣への集中制を高めるために、照射する部位の照準を治療のたびに合わせて、周辺にある正常組織へのダメージを減らします。

化学療法

抗がん剤と聞くと、副作用（有害事象）など怖いイメージを持たれるかもしれませんが、現代ではそのような副作用を抑えるための薬も多く開発されています。また、遺伝子の型や細胞の種類など、薬剤選択の



指標（バイオマーカー）によって、よりよい薬剤を選ぶことができるようになりました。さらに、薬剤師や看護師とのチームで副作用を抑えながら治療をおこなうことで、生活の質を下げることなく治療効果が期待できるようになっています。このように、がん化学療法は日々進化しているのです。

私達は「患者さんの思い」にそった医療サービスを提供することによって、一人でも多くの患者さんに「相澤病院にかかって良かった」、相澤病院を紹介してもらって良かった」と思っていただける病院を目指しています。がん治療に関しても、さまざまな選択肢で患者さんの安心に繋がりたいと考えています。

今回、中信地区で2番目、長野県内では7番目となる手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入しました。当院ではこれまで3D内視鏡システムを用いた鏡視下手術を実施してきましたが、昨年4月に着任した道面医師を中心に準備を進め、10月に「da VinciTM XTM」の機器を導入しました。

さらなる低侵襲手術によって患者さんの負担軽減を進め、地域のがん医療に寄与していきたいと思っています。

（田内克典 相澤病院長）



特集2 広がる地域包括ケア ～相澤東病院～



地域包括ケア病棟のみで構成される相澤東病院の機能を教えてください。

当院の機能としては主に二つの役割があります。一つは全身管理下で集中的にリハビリをして、在宅で暮らせるようにADL（日常生活動作）の改善・維持をします。

相澤病院を含めた広域型急性期病院や、かかりつけ医からの紹介による転院も引き受けます。

もうひとつは退院後の生活を整える支援です。介護サービスや訪問医療サービスを、退院先で受けられるように手配を行います。

急性期医療と在宅医療のかけ橋となる支援としては、何が特徴的なのでしょうか。

治療やリハビリを行うのは当然ですが、多くの専門担当者と、退院時カンファレンスを開くことです。イメージとしては、入院医療から在宅医療に移行するサービスに関係する全スタッフとの情報共有です。患者さんのかかりつけ医や、訪問看護師、リハビリスタッフ、ケアマネジャー、薬剤師などと、柔軟に連絡をとります。もちろん病院外部の方も参加します。



相澤東病院
Aizawa East Hospital



美味しい野菜育つかな～？
リハビリ中です。

相澤東病院 在宅への 取組み



夏祭り。風船つれたかな。



息を合わせて、がんばるぞ～！！
院内運動会



春は綺麗なサクラが見られます。



お花見の後、大合唱。



綺麗な花が咲いています。
心と身体のリハビリです。

例えばかかりつけ医との間では、治療方針や往診について、薬はどうするか、などの話をします。また、その患者さんが昼間にひとりで過ごしていれば、デイケアをどのくらい使うのかなどの話もすると思います。その場合、ケアプランの作成や給付管理を行うケアマネジャーも参加します。そのほか、場合によっては栄養士も訪問する必要があるかもしれません。

患者さんに対しては、在宅で暮らせるだけのADLの改善を目指しますが、限界があります。今後暮らす家がバリアフリーではない、手すりが無い、風呂の形状が悪い、などによって生活に支障がある場合には、職員が訪問してできる限り暮らしやすい環境を提案することも、退院時カンファレンスの目的のひとつです。

今後、力を入れていきたいことはありますか。

地域密着の病院としての役割を今以上に果たしていきたいです。例えば、病院のスタッフが地域に出ていって、地域に溶け込んでいくことを考えています。松本市の様々な「通いの場」で、当院の音楽療法士などがケアを施してもいいでしょう。ほかに、老人会の集まりにセラピストが出向いてもいいですし、栄養士が食事の提案をしてもいいですね。

(宮田和信 相澤東病院長)

FACE TO FACE vol.1

消化器病
センター
新倉 則和
副院長



「患者さんの希望・期待に応えること」
を第一に診療しています——。

新倉 則和(あらくらのりかず)

副院長

消化器病センター センター長

内視鏡センター センター長

消化器内科 統括医長

□開業医の先生方・患者さんからの声をしっかり聞く

相澤病院に着任し、開業医の先生方からの要望やご意見をフィードバックしてくれる医療連携センターの体制、そしてフィードバックの量に驚きました。

日頃診療を担当している医師として、患者さんからのニーズを受け安心な医療を届けることはもちろんですが、その後の患者さんの様子や、有事には医療連携センターを通して紹介や相談がくるのでとてもスムーズな連携が取れており、また当院の強みと考えます。

診療した患者さん、ご家族が、開業医の先生へ受診された際に相澤病院での診療や出来事についてお話しされる情報こそがとても重要であり、その情報をいかにして入手するかは医療連携センターが培ってきた連携があるからこそだと思います。なので、今後も開業医の先生方には医療連携センターを通して忌憚のないご意見を賜れればと思います。

□より早く患者さんへ医療を

当院の使命として、ご紹介を頂く患者さんの外来、検査いずれにせよ予約の待機日数がいかに短くできるかがまずは重要と考えます。内視鏡検査は原則10日以内そして、2016年に紹介患者専門外来も立ち上げ、外来予約の待機日数の短縮を行うことができました。

なぜこのような体制ができたのか、それはまず自分が新患外来に立つことで初診を担当させて頂き、その後のフォローなどは10人以上いる常勤の消化器内科の医師へ引き継ぐことができるからです。また、内視鏡センターには看護師、臨床検査技師等20人以上のスタッフがいいます。医師やコメディカルのマンパワーの多さも当院の強みであると考えます。



□チームでの医療提供体制の構築

マンパワーが多いという点でのメリットはもちろん多くありますが、その反面、医師・コメディカル・事務が一つのチームとして動くのはそう簡単ではありません。現場の状況を確認しながら、日々一生懸命やっている事が、本当に患者さんニーズに込んでいるのか、万が一間違っている努力であれば診療科の全体を見渡し、より効率的でニーズに沿った業務を行うよう舵取りをしなければなりません。

そのために、自分の持っている知識や技術は若い医

師にはしっかりと伝え、勉強する環境と時間を確保させています。また、相澤理事長のビジョンや、社会のニーズをそのままトップダウンするのではなく各職種に合わせ、医師であれば働き方改革の面にも配慮しつつ、まずは少しの努力でできることからクリアしていくよう指導しています。クリアをした成功体験は今後の自信、やる気につながっていきます。こういった積み重ねが予約調整や患者さんへのサービス面含め質の高い医療提供につながっていると考えています。

□開業医の先生方へメッセージ

日々、多くの患者さんをご紹介頂きありがとうございます。先生方からご紹介頂く地域の患者さんのためにも、しっかりとした院内の組織作りから、若い医師の育成を行って参ります。冒頭にもお話ししましたが、患者さんやご家族からの「生の声」について、良い面も悪い面も是非お教え頂ければ診療科全体でも共有し、今後の診療に生かせるよう努めて参ります。

今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

(新倉則和 相澤病院副院長)

新倉先生に相談のため電話や直接伺うと、いつでも穏やかに対応いただき、こちらでも落ち着いて相談や連絡をすることが出来ます。忙しい中、どうしていつも穏やかに対応いただけるのか伺うと、「ただ、気をつけているだけだよ」と満面の笑みで返答頂きました。そこには、患者さんにはもちろんスタッフにも気配りしてくださる優しい先生のお姿がありました…。

(池田・金子)



紹介専門外来(消化器内科) 外来担当

診療科	月		火		水		木		金		土	
	A	M	P	A	M	P	A	M	P	A	M	P
紹介患者 専門外来	新倉 則和			松崎 豊			清澤研道 (肝臓) 新倉 則和			藤元 瞳		
							清澤 研道 (肝臓)			新倉 則和		

薬剤センターより

相澤病院・相澤東病院では診療報酬でDPC病院に於いての持参薬使用に関するルールとして「入院の契機となった傷病の治療に持参薬を用いることは原則禁止する」とされています。相澤病院ではそのルールに則り持参薬を使用しておりません。

そのため、患者さんのお薬手帳や、紹介状を参考に薬剤師が鑑別し、入院処方として調剤しております。不明な点がある場合には患者さんからお話を伺ったり、かかりつけ薬局に問合せもしておりますが、それでも情報が十分でない場合にかかりつけの先生方や医療機関の薬剤師の皆様へ問合せをさせていただいております。先生方へはご迷惑をお掛けしますが、患者さんの安全のため何卒ご協力をお願いいたします。(薬剤センター鬼窪)



栄養科より

管理栄養士による在宅訪問(居宅療養管理指導)を開始して7年が経過しました。先生方からの依頼を頂戴し200-350件/年程の療養生活支援に繋がっております。これまでの介入を振り返ると、認知症をもっている方や、同居家族がいる世帯にも介護負担軽減や不安を考慮して支援が必要な傾向にあることが分かりました。また、心不全の治療をおこなって生活されている方で、左室駆出率が維持されている(HFpEF)方の食事摂取量が少なくなる傾向が認められました。在宅療養されている方やご家族の生活背景や大切にされていることに寄り添い、入院が必要にならず在宅での生活が続けられるように、支援させて頂いております。尚、介入毎に報告書を主治医やケアマネジャーなどの関連職種と情報共有致します。食事や栄養のことでお困りの方がおりましたら、栄養科にご連絡頂ければ幸いです。住み慣れた場所でひとりひとりが自分らしさや生きがいを持ち続けながら安心して生活できるように支援させて頂きます。(栄養科矢野目)



医療福祉相談室より

医療福祉相談室では、患者さん、ご家族が安心して退院できるように、かかりつけの先生をはじめ、退院後の在宅療養に関わる関係者を交えた退院前カンファレンスを行っております。患者さん・ご家族からも「かかりつけの先生や関係者の話を直接聞け、在宅への引き継ぎがしっかりとされている様子を見ると、大変安心します」とお話を頂いております。昨年の診療報酬改定におきまして、ICT機器を用いたカンファレンスも評価されました。当院でもZOOMを活用したカンファレンスを行っており、ご家族はじめ在宅関係者の皆様には当院にお集まり頂き、かかりつけ医の先生にはZOOMでご参加を頂いております。カンファレンスについてかかりつけ医やかかりつけ薬局の先生方へご提案させて頂きますので、お忙しいところ恐縮ですが、是非ご出席頂ければ幸いに存じます。(医療福祉相談室岩見・堀内)



編集後記

今年は、「癸卯(みずのと・う)」という兎年であり、新しいことを始めるのに最適と言われています。患者さん、ご家族も先生方もぜひ新しい事を始めるチャンスですね。私達も地域の医療機関の皆様へ相澤病院・相澤東病院の情報をもちと発信したい!もつと知ってもらいたい!と思い、連携通信を創刊しました。今後地域とのより良いコミュニケーションとして有益な情報をお届けできるよう努めて参ります。(百瀬)

